

# 園長の思い

ピアジェの認知発達心理学に学んで

臼井幼稚園

園長 志田裕美子



## ピアジェの認知発達心理学に学んで 一

楽しいから好き、だからやってみたい！を大切にする

子どもの発達にとって大切なのは、知識の量を増やすことではありません。大人にとって価値があると思える知識を詰め込む早期教育を幼稚園の芯として行なっているところもありますが、学習にとって大切なのは、練習の回数ではなく、子ども自身がやりたいと思って取り組む態度です。新鮮な気持ちで自発的に学習していくなら、1回だけの経験でも知識は定着します。またピアジェによれば、子どもの知的発達の間違った自分の解答を、自ら気づき、修正する、能動的過程にのみ存在するというこ

です。子どもにとっては見ること、知ること、動かすことは大きな喜びです。ごほうびをもらえるからやる、というのは外的動機です。自分自身のエネルギーで何かに取り組み、失敗を重ねながらも成功した時、その喜びはいっそう大きなものになります。



子どもは生まれた時から少しずつ確実に発達していきます。その発達は一一人ひとり異なるものです。1人ひとり異なることを無視して、能力を一律に引き上げようとする教育は、子どもの発達を窮屈にさせています。人と違うことを恐れる国民性ゆえか、日本の教育は子どもに平均化を求め過ぎてきました。

## 友だち同士で学びあう

子どもは、大人に褒められるよりも、友達に認められることで、より大きな喜びを感じることができるものです。その喜びが次の成長への原動力となることもピアジェは述べています。友達関係の中で協調しながら活動することにより、より豊かな人間性と社会性、そして自立心を育てることも大きな目標としています。



幼稚園は集団生活です。幼児は本来自己中心的な考え方ができないと言われていて、自分が遊びたいおもちゃを別の子が使っていたとして、横取りするようなことを、ご覧になったことはありませんか？少し体が触れただけでもたたかれたと思ったりもします。一緒に遊びたいのに、言葉で伝える術がないために、つい手が先に出るということもよくあります。

子どもは衝突があってはじめて痛みを知ります。上記のような不器用な社会性を改めようとする自覚が芽生えてこそ、思いやりが育ちます。親の過保護、過干渉が子どもの育ちの妨げになるのと同様に、

教師が強くリードする保育では思いやりも育ちません。子ども同士の密接な関わりがあってこそその成長です。代用は一切ありません。

「どんな子を育てたいか」、文部科学省が「生きる力」を育てる教育を進めています。臼井幼稚園の教育の芯に「自律心のある子ども」を育てたいという思いがあります。前時代のように、自律心を鍛錬や強制で育てるべきものではなく、日々の楽しさから生まれるものと思っています。

それは最終的には生命の大切さを知りことと、生きる喜びにつながります。



## 表現に正解はない

表現とは、そもそも「自分の思いや考えを表出」することであって、指導者の模倣ではないはずで、ところが日本には伝統的に「習い事」があり、この分野では「師匠の模倣」が主流です。

しかし、認知発達心理学の見地からも分かるように、幼児期にはすでに「自己主張」「自我の芽ばえ」が見られます。自己の思いや考えを表出、表現する能力は持っていて、それを受け止めてもらうことで、達成感、自己有能感、意欲などが育ち、コミュニケーション能力の育成にも繋がるのです。

指導者の模倣、指導者が準備したものを作ったり、指示通り描かされたり、踊らされたりしては表現とは言えないし、ましてや先に述べた内面の成長には繋がりません。

そればかりか、学習で得た知識を再構成するにも「表現力」が必要です。論文にまとめるのは言語による表現です。日常生活で見聞したことを、製作や描画で表現する際にも再構成というプロセスを経緯しています。

「表現力」は別の言い方をすれば「考える力」です。「もっと考えて」と促すだけでは考える力を育ちません。幼児期にお絵描き、お遊戯が指導者の模倣に留まっていると、活動そのものをいくら取り替えても、子ども側からすると「自己表現」ではなく、「教え込み」、「やらされている」にすぎません。

一方「自己表現」に重きを置きすぎるのも問題です。「子どもの思い」を過剰評価する立場です。この立場でも、十分な達成感、自己有能感、意欲は育ちません。子ども自身が、思いや考えをどう表現するかの経験の積み重ねがないと、十分に表現できません。もちろん、その経験自体が指導者の模倣であってはならないし、十分な自己表現を保証するものでなくてはなりません。

子どもの思いを大切に。一人一人の個性を尊重する。当然のことです。同時に、表現力、そして考える力を育てる「お遊戯、お絵描き」でなくてはならないのです。当園では「お遊戯」にあたる活動をクリエイティブ・ムーブメント、リズム・バリエーションと言って、身体表現遊びとして行なっています。描画活動は認知発達心理学の立場から実践しています。



子どもは、その日にあったことを家で話せるとは限りません。今日子ども達が幼稚園でどんなことをして過ごしたのか、保護者の皆様と少しでも共有できるように、臼井幼稚園ではホームページで

「今日の子供達」の写真をアップしています。

保護者の皆様だけにログインパスワードをお知らせしています。



子育てに迷ったり、心配のある方はご相談ください。  
特別な支援の必要なお子さんも遠慮なくご相談ください。  
ホームページのお問合せからもどうぞ。

TEL : 043-487-5462